

日本を支える

KANSAIモノづくり企業

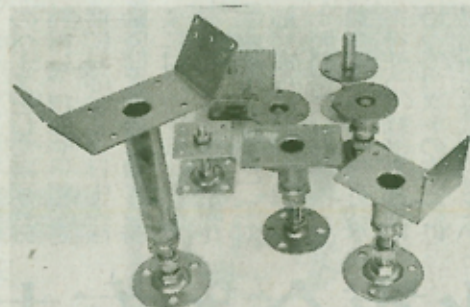
175

一度聞いたら絶対に忘れない会社名。2012年8月に社名変更したコバツシャアの狙いは、社名で強烈なインパクトを与えることだった。小林シャリング工業所から名称変更した理由について小林良信社長は「展示会で普通の社名なら忘れられることもある。間が空いても思い出してもらえる社名」と話す。

コバツシャア

一度聞いたら絶対に忘れない会社名。2012年8月に社名変更したコバツシャアの狙いは、社名で強烈なインパクトを与えることだった。小林シャリング工業所から名称変更した理由について小林良信社長は「展示会で普通の社名なら忘れられることもある。間が空いても思い出してもらえる社名」と話す。

した建造物の補助構造物の床束「ツカエース」だ。床束は溶接を施すケースが多いがツカエースは溶接せずに、パイプとナットのつなぎ目に独自のカシメ処理を用いた。特許出願済みの結合技術について小林社長は「建物の基礎となる部材は施工後の補強ができない。溶接しないことで強度維持ができて」と



補強用の「ツカエース」は溶接せずに、パイプとナットのつなぎ目に独自のカシメ処理を用いた。

追い風となりそう。ツカエースの開発経緯も記憶に残るものだった。配管の打撃練習で使うパイプを複数回、思いが強く一方だ。ツカエースが使われるのは基礎工事の時。がれ

生産能力を月産20万個から30万個に高める。一戸建てや建造物の工事が本格化してからは遅いために、東日本で提携先増に向けた動きも強化する。シャリング、配管継ぎ手で会社の基礎を築いた後で、満を持して投入した耐震補助金具「ツカエース」がコバツシャアの足取りをしっかりと支えていく。

溶接せずに強度維持

胸を張る。ナット径も通常より大きい14ミリ。ステンレス製で7ト級の、鉄製で4・5ト級の重量を支える。金型から自社製作できるため、定番の約

100型以外に特注品の製造も可能だ。従来品は溶接タイプが多く、結合部のバリ取りの難しさも

の大手スポーツメーカーに供給している。小林社後は阪神大震災後、神戸市内までティールを運搬する際に、被災状況を見つ

き処理、区画整理を経た後だ。「必要に応える体制をしっかりと整えたい」と力が入るように、まず4月に金型製作装置を1

▽社長 小林良信氏▽所在地 大阪市生野区巽西3の8の10、06・6757・1812▽従業員 17人▽売上高 非公表▽製品 1フレキ管部品、配管支持部品、耐震用床束など製造

(火曜日に掲載)